

社会問題とどう向き合うべ

きる。

高等教育機関で学び、働いて

きか。「社会診断」(M. リッ
チモンド)の概念を参考に考
えてみたい。

だが、限界もある。たとえ
ば、少子化現象について考え
てみる。少子化はなぜ起きた

収入を得るようになったから、
少子化という結果になったと
いう見方である。

社会診断とは、医者が患者
の病気を治療するのと同じよ
うに、社会問題を克服すると
いうものである。医者が患者
の病気を治すとき、病原体を

のか。一般的に言われている
要因の一つは、女性のライフ
スタイルの多様化である。結
婚して子どもを産み育てるこ
とこそが女の幸せという単線

これに関して社会診断を行
うならば、原因を取り除く、
すなわち、すべての女性が家
庭に戻り、大学進学をやめれ
ば、少子化は解決するという
ロジックになる。だが、こ

社会診断の難しさ

特定化してふさわしい処方箋
を示す。その結果、患者は病
気を完治させることができる。

型の価値観から、家庭を作ら
ず仕事で評価される幸せ、結
婚しても子どもを持たない幸

ら、賛同を得ることは難しい。
それはなぜか。男女不平等と
闘ってきた歴史があるためで
ある。

これと同様、社会学者も「社
会診断」を行う。すなわち、
社会問題を引き起こしている
原因を追究し明らかにする。

せ、仕事と家庭を両立させる
幸せなど、選択肢が与えられ
た複線型の価値観が社会に浸
透した。

むしろ社会的成熟や社会的
発展の観点からは、少子化は
男女平等というフェミニズム

さらには、その原因を排除す
るような政策提言を行う。そ
の結果、社会は問題に対処で

なかでも、注目すべき要因
は、女性の高学歴化と社会進
出である。要するに、女性も

の思想的達成の証である。少
子化が問題なのか成果なのか、
診断の仕方によって異なる。